

語彙学習における付随的学習と意図的学習の融合

吉井 誠

(第二言語習得・英語教育)

外国語を学ぶためには語彙を増やすことは欠かせません (Folse, 2004:22-29)。では、どんな学習方法があるのでしょうか。主に二つの方法に分かれます。私たちに一番馴染みのあるのが最初の方法で、語彙のリストを作り意図的に学習していく方法です。もう一つが、内容理解を主な目的に読んだり聴いたりするうちに、出てきた単語を自然に覚えていく方法です。後者を付随的語彙学習と呼んでいます。この小論では、それぞれの学習方法について紹介し、両方をうまく組み合わせていくことが大切だということをお話します。

最初に意図的学習法についてです。知っておかなければいけないという単語のリストがあります。高校生の場合は大学受験対策用のもの、大学生の場合は TOEIC、英検、TOEFL 対策用のリストが考えられます。様々なリストが存在しますが、英語圏においてよく用いられてきた古典的なリストと最近のリストを紹介します。古典的なリストは General Service List (West, 1953) と呼ばれる Michel West によって開発されたものです。日常的に最も頻繁に使用される英語 2000 語のリストです。大変古いリストですが、信憑性が高く今でも良く使用されています。この 2000 語を知っていると既存の英語の読み物の約 80% が理解できるだろうと言われていいます (Nation & Hwang, 1995)。最近のリストとしては Academic Word List (Coxhead, 1998) があります。GSL ではカバーできていない単語で、アカデミックなテキストなどに頻繁に出現する 570 語のリストです。将来英語圏に留学したい人には必見のリストです。この AWL と GSL を組み合わせると英語の読み物の約 90% の単語が理解できると考えられています。そのほかにも、現代のイギリス英語を代表しているものとして British National Corpus (BNC) があります。1995 年に公開されたもので、書き言葉と話し言葉の両方を含んでいます。効率的に学ぶためには、学習者が目的に合わせてそれぞれの用途に合ったリストを利用することが必要です。しかし、リストを用いた学習は単調になりやすく覚えてもすぐ忘れてしまう傾向があります。

次に、付随的学習についてですが、Reading を一つ例に取りましょう。母国語においては大変重要な手段であり、小学生は主に Reading を通して語彙を増やして

いるとも言われています (Nation & Meara, 2002)。しかし、外国語の場合、Readingを通して語彙を学習するのは残念ながら母国語のようにはうまくいきません。Readingで新しい単語に出会い、それを推測し自然と学習するためには、テキストの単語の約95%を理解しておく必要があります (Hirsh & Nation, 1992)。テキストの中に出てくる新しい単語に気づかなかったり、気づいたとしてもそのまま読み流したりすることも多々あります。推測そのものが出来ない、推測出来たとしても誤っている場合もあります。しかも、Readingの中で単語が学習され定着していくためには何度もその単語に出会う必要があります。研究によっては少なくとも10回は触れる必要があると主張されています (Horst, Cobb, & Meara, 1998; Saragi, Nation, & Meister, 1978)。同じ読解教材の中で、同じ単語に複数回出会う機会があったとしても、10回も出てくることはまずありません。それでは、ほかの教材を読んで、同じ単語に10回出会うためには、どれくらいのテキストを読まなければいけないのでしょうか。何だか気の遠くなるような話です。このように付随的学習では効率性の面で問題があります。それでは、どうしたら良いのでしょうか。うまく両方の利点を活かして補完的に学習することをおすすめします。すなわち、意図的学習には付随的な要素を、付随的学習には意図的な要素を取り入れます。いくつか具体的な方法を挙げます。

意図的学習へ付随的要素を融合させる方法ですが、語彙リストで特定の単語を学びながら、多読多聴を心がけると良いでしょう。その際は、二つの点に注意してください。一つは多読多聴の教材選びです。語彙リストを反映させていると思われるものを選んでください。せっかく単語を学んでも、その単語に出会う機会がないことには定着に結びつきません。次に、あくまでも内容理解を中心として多読多聴を進めます。意図的に学ぶことはあえて避けてください。多読多聴では楽しむことがとても大切です。楽しくないと長続きしません。そのためには、教材選びにはこだわって出来るだけ興味の持てそうなものにしましょう。

最後に、付随的学習への意図的要素の融合ですが、読解活動をした後に、もう一度文中に出てきた気になった単語に目を通すことをおすすめします。読解中は内容理解に集中して意図的学習は、読解後にとっておきましょう。語彙を増やそうと力が入りすぎると、せっかくの読む楽しさが損なわれ内容理解がおろそかになる恐れがあります。一つおすすめをして終わります。読解活動の中で電子辞書を使用することが多いと思います。読解後に電子辞書の履歴を上手に使ってみてください。履

履歴を見るとどんな単語を検索したのか、その意味を再確認できます。読んだ後に履歴に目を通してみましょう。単語とその意味を再度見るだけでも記憶への残り方がずいぶんと違います。もし、その時、単語が使用されていた文脈が思い起こせたらしめたものです。履歴を見る習慣をつけると日頃の生活の中で出会う単語を覚える確率が高くなると思います。両方の学習方法をうまく組み合わせて自分に合った語彙学習法を試してみてください。

引用文献

- Coxhead, A. (2000). A New Academic Word List. *TESOL Quarterly*, 34, 213-238.
- Folse, K. (2004). *Vocabulary Myths*. Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Hirsh, D., & Nation, I. P. (1992). What vocabulary size is needed to read unsimplified texts for pleasure?. *Reading in a Foreign Language*, 8, 689-696.
- Horst, M., Cobb, T., & Meara, P. (1998). Beyond a clockwork orange: Acquiring second language vocabulary through reading. *Reading in a Foreign Language*, 11, 207-223.
- Nation, P. I., & Meara, P. (2002). Vocabulary. In N. Schmitt, *An introduction to applied linguistics* (pp. 35-54). London: Arnold.
- Nation, P., & Hwang, K. (1995). Where would general service vocabulary stop and special purposes vocabulary begin? 23, 35-41.
- Saragi, T., Nation, P. I., & Meister, F. G. (1978). Vocabulary learning and reading. *System*, 6, 72-78.
- West, M. (1953). *A General Service List of English Words*. London: Longman.